

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
経済学 Economics		1年	前期・後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択 ()		特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
国際関係論入門・国際文化論入門				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
国際関係論入門・国際文化論入門				
担当者に関する情報				
氏名		研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス
金井尊史 長江庸康				授業中に指示します
授業の概要				
実務を念頭に置いたミクロ・マクロ経済学、金融、財政、及び世界経済の学習を通じて国際情勢をより深く理解できる能力を身に着ける。				
授業の目標				
①国際的な経済情勢から見た国家・国際社会の理解と習得ができるようにする。 ②マクロ経済学・ミクロ経済学の基礎を習得し、説明できるようにする。 ③金融・財政とグローバルな経済活動を連動して考え、説明できるようにする。				
授業の方法				
本授業は毎回配布するレジュメに基づきグループディスカッション等を交えながら講義形式で進行する。				
学習の成果(学習成果)				
「授業の目標」で挙げた三点の習得を前提として、現代の国際関係や国際情勢と関連づけて考えることができるようにする。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス			
第2回目	経済学とは何か(1) 研究領域と考え方			
第3回目	経済学とは何か(2) 歴史に見る経済活動			
第4回目	ミクロ経済学(1) 受容と供給			
第5回目	ミクロ経済学(2) 市場の構造			
第6回目	マクロ経済学(1) 国家としての経済活動			

第7回目	マクロ経済学（2）国家の経済政策
第8回目	中間試験
第9回目	金融と財政（1）金融システムの仕組み
第10回目	金融と財政（2）税金・年金のゆくえ
第11回目	国際経済（1）国際為替市場と変動為替相場
第12回目	国際経済（2）国際情勢と経済活動の連動
第13回目	20世紀・21世紀と経済（1）帝国主義・世界大戦の時代
第14回目	20世紀・21世紀と経済（2）冷戦から現代まで - イデオロギー対立と経済 -
第15回目	授業のまとめと試験の説明（模擬試験）

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	40%	毎回出席することを前提とし、こまめなメモ・問いかけに対する回答を期待する。
レポート		
調査報告書		
小テスト	20%	第8回で実施する。試験範囲は第2～第7回まで。（記述式・持ち込み不可）
試験	40%	第16回で実施する。試験範囲は第2回～第14回まで。（記述式・持ち込み不可）
発表内容（態度含む）		
その他		

教科書と参考図書

特になし。（毎回レジュメを配布）

履修上の留意点・ルール

無断欠席・授業中の私語・飲食・携帯電話の使用は厳禁とする。